

育児不安への対応

その1. 一育児不安の定量的測定方法の開発一

(分担研究：被虐待児の地域システムに関する研究)

山中龍宏¹⁾、吉田弘道²⁾

要約：母親による子どもの虐待防止や、母子の安定した情緒的関係の形成に対する援助の観点から、母親の育児不安を軽減するための育児サポートの必要性が指摘されている。しかし、これまでのところ、サポートの方法を検討したり、サポートの効果を分析したりするのに必須となる「育児不安を定量的に測定する方法」で確立したものはない。そこで、育児不安を定量的に測定する尺度を開発し、その標準化の作業を開始した。今年度は、調査項目の案を作成し、各月齢別の母親に対してアンケートを送付した。

見出し語：虐待防止、育児不安、育児支援、育児不安の定量的測定方法、アンケート調査

【研究目的】

子どもを虐待する母親についての研究から、母親の側の育児に関係した不安や緊張が虐待の要因として関与していることが明らかになっている¹⁾。また、乳児を育てる場合に、泣くことが多くて育てにくい子どもを育てている母親に対し、周りからのサポートが少ないと、母親と子どもとの間に安定した情緒的な絆を形成することが困難であることも知られている²⁾。これらの研究から、母

親の不安を軽減させるための取り組みや母親へのサポートが必要であることを知ることができる。

ところで、母親を援助する活動を行った場合に、援助活動が母親の子育ての不安や悩みを軽減するのに役立っていることを経験的に確認できても、不安が軽減されたことを定量的に明らかにすることは難しい。海外の研究では、一般的な不安尺度を用いて論じられていることが多く³⁾、育児に関係した不安を定量的に測定

1) こどもの城小児保健部

2) 東京都精神医学総合研究所

する方法は確立されていない。

そこで、子育て中の母親の育児不安を測定し、また、育児支援の効果も測定できるような尺度を作成することが、今後の育児支援の方法を計画したり、援助の効果を明らかにする上で必要であると考え、育児不安尺度を作成することとした。今年度は、調査項目を抽出し、標準化の作業を開始した。

【研究計画】

1. 育児不安尺度の項目案の作成

これまでに行われた、母親の育児満足⁴⁾、育児意識^{5)・6)}、母子関係の情緒的な性質と母子の特性²⁾、虐待する母親の特徴¹⁾、などの研究から、育児不安に関与していると考えられる要因を抽出した。その結果、育児不安に関与する要因として、育児による母親の社会的活動や仕事の阻害感、育児に対する母親自身の自己評価や自己効力感、夫婦関係、夫をはじめとする社会的サポート、子どもの泣きや機嫌などの気質、母親の心身の健康状態、をピックアップした。そしてこれらの要因に関する55項目を選択した(表1)。この55項目は、とりあえず、「育児意識・育児満足」、「育児不安」、「社会的サポート」、「子どもの特徴」の4つの領域に整

理したが、今後調査をして因子分析を行った後に、妥当な領域に分類しなおす予定である。

2. 方法

(1) 項目決定のための調査

まず、調査項目を決定するための予備調査を実施する。

育児中に不安を覚え、育児相談を求めてくる頻度が多いのは、乳児期が全体の6~7割を占めており、2歳以下がほとんどである^{7)・8)}とされているので、2歳以下の子どもを育てている母親を対象とする。特に0歳児の全般に育児相談が多いことから、1カ月児、4カ月児を育てている母親を対象とする。また10カ月頃になると、母親の育児意識が変化する⁴⁾という報告もあるので、この時期の子どもを育てている母親も対象とする。さらに、子どもの自己主張が増えてきて、子育ての大変さが乳児期と変わる1歳半、さらに家の外での子ども同士の関係が増え始める2歳の子どもを育てている母親も対象とする。

対象児は男女150名ずつとし、対象人数は、因子分析に十分な数として、1カ月児、4カ月児、10カ月児、1歳半児、2歳児の母親それぞれ300人とする。

調査方法は、対象者の家庭にアンケート用紙を郵送し、回収する。

(2) 項目妥当性の調査

上記の項目決定のための調査と同時に、育児不安に関係した調査項目が、一般的な不安とどの程度関係しているかどうかに関する調査も行う。この際用いる検査としては、育児中の不安を測定するのによく使われている^{2, 5)} C.D.Spielbergerの状態・特性不安検査の日本版⁹⁾を使う。この検査では、潜在的にその人が持っている不安(特性不安)と、時期によって短期間誘発される不安状態(状態不安)の両方を測定できる。

また、この方法に加えて、育児支援活動に参加した母親と参加しなかった母親とで、不安の変化を比較検討する調査を行う。これには、育児不安尺度と状態・特性不安検査の両方を用い、不安の変化を育児不安尺度の項目で測定し得るかどうかを検討する。

(3) 項目信頼性の調査

調査1、2を経て項目が決定された後に、項目の信頼性を検討するためのtest-retest調査を行う。対象数はそれぞれの年齢群で、100を考えている。テスト間隔は3週間を予定している。

【終わりに】

今年度の報告では、今後の研究計画のあらすじを述べ、調査項目を明らかにした。今後は計画を実行に移し、育児不安尺度を完成させるとともに、育児不安を定量的に測定し、育児支援活動の評価に役立てていきたい。

文献

- 1) Lesnik-Oberstin, M., Koers, A.J., & Cohen, L. Parental hostility and its sources in psychologically abusive mothers: a test of the three-factor theory. *Child Abuse and Neglect* 1995 ;19,33-49.
- 2) Crockenberg, S.B. Infant irritability, mother responsiveness, and social support influences on the security of infant-mother attachment. *Child Development* 1981;52:857-865.
- 3) Roman, L.A. et al. Parent-to-parent support initiated in the neonatal intensive care unit. *Research in Nursing and Health* 1995 ;18,385-394.
- 4) 大藪 泰、前田忠彦. 乳児をもつ母親の育児満足度の形成要因 I - 4カ月児と10カ月児の母親の比較 -. *小児保健研究* 1994;53, 826-834.
- 5) 森 ウメ子. 幼児期の子育てに

かかわる母親の意識と子どもの健康状態との関連性について－STAI（状態不安）による分析－.看護技術 1995;41,538-544.

- 6) 庄司順一、恒次欽也、川井 尚他.育児における父親の役割に関する研究－育児に関するアンケート結果のクロス集計（1）－.平成6年度厚生省心身障害研究「少子化時代に対応した母子保健事業に関する研究」報告書 1994;75-101.
- 7) 杉下知子、石垣和子、鳥居央子.手紙による母親の育児相談にみられる保健婦の保健指導のあり方について.平成4年度厚生省心身障害研究「少子化時代に対応した母子保健事業に関する研究」報告書. 1993;207-209.
- 8) 中村 敬.母子保健サービスにおける民間活動のあり方に関する研究 1 リサーチクエスション「民間サービスの実態調査」に対する回答.平成4年度厚生省心身障害研究「少子化時代に対応した母子保健事業に関する研究」報告書.1993;293-294.
- 9) 水口公信、下仲順子、中里克治.日本版STAI状態・特性不安検査使用手引.京都:三京房,1991.

表1 育児不安尺度の項目(案)

「育児意識・育児満足に関係した項目」(17項目)

- 子どもを育てるのが楽しいと思う。
- 子どもを宝物のように大切に思える。
- 子どもをもつ母親としてしみじみとした幸せを感じる。
- 子どもの成長を楽しみに思う。
- 子どもの相手をするのは楽しい。
- 子どもを育てることで自分も成長していると思う。
- 子どもと一緒にいるとゆったりとした気分になる。
- 子どもを産んでよかったと思う。
- 子どもに着させる服のことを考えるのは楽しい。
- 子どもは私と一緒にいるのを楽しんでいると思う。
- 子育ては自分にとってやりがいのあることだと思う。
- 自分がほかのだれよりも自分の子どものことをよくわかっていると思う。
- 子どもを育てていながら自分はこの子にとって必要な存在だと思う。
- 母親として子どもと接している自分も自分であると好きに思える。
- 子育ては自分には合っていないので早く好きなことをしたいと思う。
- 子どもができてから自分の仕事に困難を感じることもあるがそれはそれでよしと思える。
- 子育てをするようになってから社会的に孤立していると思うことがある。

「育児不安に関係した項目」(19項目)

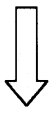
- 自分は子どもをうまく育てていないと思うことがある。
- 子どもを育てる自信がないと思うことがある。
- 子どもを育てていてどうしたらいいかわからなくなることがある。
- 毎日生活していてなんとなく心に張りが感じられない。
- 疲れやストレスがたまってイライラする。
- 家族と気持ちがよく通じ合っていないと思うことがある。
- 体の疲れがとれずいつも疲れている感じがする。
- 家で居場所がないと感じたり、居心地が悪いと感じる。
- ゆったりとした気分子どもと過ごせない気がする。
- 子どもを育てていて自分だけが苦勞していると思う。
- なにか心が満たされず空虚であると感じる。
- 自分の子どもの育て方はこれでいいのだろうかと思うことがある。
- 自分は子どものことをわかっていないのではないかと思うことがある。
- 育児や家事など何もしたくない気持ちになることがある。
- 子どもの顔を見たくなくなるくらいに気持ちが沈むことがある。
- 子育てを離れて一人になりたい気持ちになることがある。
- 一人で子どもを育てている感じがして気持ちが落ち込むことがある。
- 子どもをたたいたりしかったりしたときにいつまでもくよくよと考えることがある。
- だれも自分の子育ての大変さをわかってくれないと思うことがある。

「社会的サポートに関係した項目」(11項目)

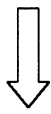
何でも打ち明けて相談できる人がいて良かったと思う。
子育てのことで相談できる人がいて良かったと思う。
夫はよく相談相手になってくれると思う。
夫といろいろなことを話す時間がある。
夫は家事に協力的である。
夫は子どもの相手をよくしてくれる。
夫と自分の二人で子どもを育てている感じがする。
子どものことでだれも相談する相手がいなくて困ることがある。
子どものことでだれに相談したらいいかわからなくて困ることがある。
夫は自分のことを理解してくれていると思う。
家庭内の重要な決定をするのに夫がいてくれて良かったと思うことがある。

「子どもの特徴に関係した項目」(8項目)

育てやすい子どもであると思う。
わかりやすい子どもであると思う。
体の丈夫な子どもであると思う。
育てるのに大変手がかかる子どもであると思う。
寝たり起きたりのリズムが安定している子どもだと思う。
機嫌の良いことが多い子どもだと思う。
一緒にいるのが楽しいと思える子どもである。
子どもの発育発達はおおむね順調である。



検索用テキスト OCR(光学的文字認識)ソフト使用 論文の一部ですが、認識率の関係で誤字が含まれる場合があります



要約:母親による子どもの虐待防止や、母子の安定した情緒的関係の形成に対する援助の観点から、母親の育児不安を軽減するための育児サポートの必要性が指摘されている。しかし、これまでのところ、サポートの方法を検討したり、サポートの効果を分析したりするのに必須となる「育児不安を定量的に測定する方法」で確立したものはない。そこで、育児不安を定量的に測定する尺度を開発し、その標準化の作業を開始した。今年度は、調査項目の案を作成し、各月齢別の母親に対してアンケートを送付した。